

ロボット・テクノロジー 関連株ファンド（年1回決算型） －ロボテック（年1回）－

運用報告書（全体版） 第9期

（決算日 2024年9月13日）
（作成対象期間 2023年9月14日～2024年9月13日）

■2023年12月7日付で信託期間終了日を2025年9月12日から2050年9月13日に変更しました。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
（営業日の9：00～17：00）
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2016年2月8日～2050年9月13日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. アクサIM・グローバル・ロボット関連株ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）の受益証券 ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算)		公社債 組入比率	投資信託 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
5期末(2020年9月14日)	円 21,446	円 0	% 28.3	15,356	% 7.3	% －	% 99.2	百万円 13,015
6期末(2021年9月13日)	30,189	0	40.8	21,033	37.0	－	99.1	15,627
7期末(2022年9月13日)	27,933	0	△ 7.5	23,730	12.8	－	99.0	15,034
8期末(2023年9月13日)	30,664	0	9.8	26,887	13.3	－	99.5	15,838
9期末(2024年9月13日)	34,603	0	12.8	31,733	18.0	0.0	99.0	16,697

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数(税引後配当込み、円換算)は、MSCI Inc. (「MSCI」)の承諾を得て、MSCI AC World指数(税引後配当込み、米ドルベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI AC World指数(税引後配当込み、米ドルベース)は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。(https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html)

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：30,664円

期末：34,603円（分配金0円）

騰落率：12.8%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は、円高の進行がマイナス要因となりましたが、グローバル株式市況の上昇がプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算) (参考指数)		公 社 債 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 率
	円	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2023年 9月13日	30,664	% -	26,887	% -	% -	% 99.5
9 月末	30,077	△ 1.9	26,408	△ 1.8	-	98.7
10月末	27,620	△ 9.9	25,534	△ 5.0	-	99.0
11月末	31,139	1.5	27,418	2.0	-	99.4
12月末	32,715	6.7	27,874	3.7	-	99.5
2024年 1 月末	34,345	12.0	29,370	9.2	-	98.9
2 月末	36,245	18.2	30,857	14.8	-	99.0
3 月末	37,856	23.5	32,102	19.4	0.0	99.0
4 月末	37,932	23.7	32,563	21.1	0.0	99.1
5 月末	39,170	27.7	33,268	23.7	0.0	99.0
6 月末	41,229	34.5	35,222	31.0	0.0	98.8
7 月末	36,896	20.3	33,272	23.7	0.0	98.3
8 月末	36,148	17.9	32,671	21.5	0.0	99.1
(期末) 2024年 9月13日	34,603	12.8	31,733	18.0	0.0	99.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2023.9.14~2024.9.13)

■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

グローバル株式市況は、当作成期首より、F R B（米国連邦準備制度理事会）の政策金利見通しの引き上げ、政府機関の閉鎖懸念などによる長期金利の大幅な上昇、パレスチナ情勢の悪化などが嫌気され、2023年10月末にかけて下落しました。しかし11月以降は、欧米のインフレ率が予想以上に低下したことや、F R B議長が将来の利下げについての議論を始めたことを受けて利下げ期待が高まったことなどが好感され、上昇しました。2024年1月以降も、製造業の景況感が改善したことやA I（人工知能）関連企業が良好な決算を発表したことなどが好感され、押し目らしい押し目もなく上昇が継続しました。4月に入ると、インフレ再燃が懸念されて米国の利下げ開始が後ずれするとの見方が強まり、反落しました。4月下旬以降は、インフレ率が低下傾向となり利下げ期待が再び高まったことなどから上昇基調で推移し、高成長が期待されるA I関連企業の株価急騰が相場をけん引して高値を更新しました。しかし7月中旬以降は、対中輸出規制強化への懸念などから半導体関連株主導で下落すると、8月初旬には、雇用統計が市場予想よりも弱い内容であったことが嫌気され、急落しました。その後は、米国の経済指標の改善やF R B議長の実質的な利下げ開始発言などを好感して株価は急反発し、当作成期末を迎えました。

■為替相場（米ドル／円、ユーロ／円）

米ドル円相場は下落（円高）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、米国金利が上昇した一方で日銀は緩和的な金融政策の維持を発表したことから、上昇（円安）しました。しかし2023年11月以降は、日銀による政策修正や米国金利の大幅な低下を背景に、米ドルは対円で下落しました。2024年に入ってから、米国金利の上昇や日銀による金融政策の維持などを背景に円安米ドル高に転じ、日銀の副総裁がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を維持する見通しと発言したことなどを背景に、円安米ドル高基調が続きました。3月には、日銀がマイナス金利の解除など大規模な金融緩和の終了を発表したものの、日本の金融市場は他国・地域に比べて緩和的な環境が続く見通しなどから円安傾向が続き、政府・日銀が過度な円安米ドル高進行に対し為替介入を行ったものの、円安基調は継続しました。しかし7月以降は、再び為替介入が実施されたことや、日銀が7月の金融政策決定会合において、緩和的な金融政策を修正する観測が高まったことなどから大幅な円高米ドル安に転じ、日銀が実際に利上げを決定した後も追加利上げへの警戒感がくすぶったことから、円高基調は継続しました。

ユーロ円相場は下落しました。

ユーロ円相場は、日銀が相対的に緩和的な金融政策を維持していたことから、当作成期首より上昇しました。しかし2023年11月以降は、日銀による政策修正などを背景に、ユーロは対円で下落しました。2024年に入ると、ユーロ圏の経済指標やインフレ指標が一部の国で市場予想を上振れたことから早期の利下げ期待がはく落した一方で、日銀が緩和的な金融政策を維持したことから、円安基調が続きました。しかし7月以降は、日銀が7月の金融政策決定会合において、緩和的な金融政策を修正する観測が高まったことなどから円高が進行しました。さらに、当作成期末にかけては、E C B（欧州中央銀行）が9月の政策会合で追加利下げを決定するとの事前予想から、円高が続きました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

米国を中心に労働市場はひっ迫した状態が続いており、労働力不足と労働コストの上昇は向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。企業にとって、効率性や生産性を向上させるためにテクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性が高まっています。労働コストの上昇は、企業の自動化導入の費用対効果を高めることになるため、より多くの分野で自動化が検討されると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざしてまいります。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

(2023.9.14~2024.9.13)

■当ファンド

当ファンドは、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」と「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通じて、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」を高位に組み入れました。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは、「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバース・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別では、ロボット関連産業の技術革新において先進的な地

域である米国や日本を中心に投資しました。

当作成期は、2024年初来で堅調なパフォーマンスを続けていた画像処理半導体のエヌビディアなど、半導体銘柄の組み入れを一部減らしました。また、総合電機のシュナイダー・エレクトリック、手術支援ロボットのインテュイティブ・サージカルなど、株価が堅調に推移していた銘柄の一部を売却し利益を確定しました。その資金を使い、手術用ロボットのプロセプト・バイオロボティクスを新規に組み入れました。

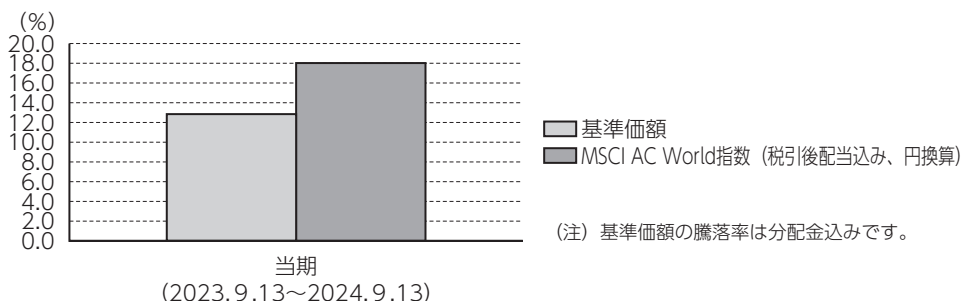
■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期は、信託財産の成長を考慮し、収益分配を見送らせていただきました。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2023年9月14日 ～2024年9月13日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	24,603

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売却等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



今後の運用方針

■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

当ファンドで注目する長期的な成長テーマとその投資機会は引き続き強固であると考えています。将来的な成長期待の高い、ロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざします。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項目	当期 (2023.9.14~2024.9.13)		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	436円	1.237%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は35,214円です。
（投信会社）	(136)	(0.385)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販売会社）	(291)	(0.825)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(10)	(0.027)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	3	0.008	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	(3)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	439	1.246	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

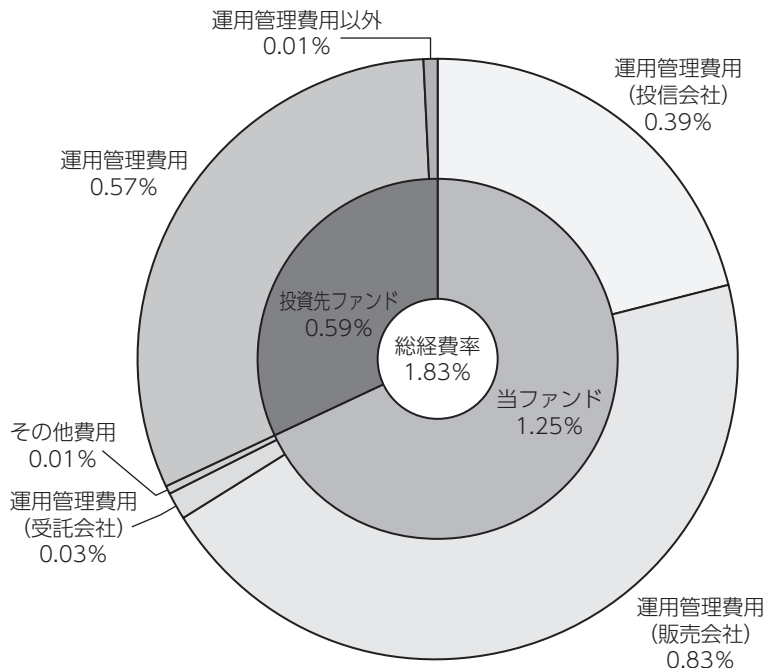
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.83%です。



総経費率 (①+②+③)	1.83%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2023年9月14日から2024年9月13日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	千口 307,143.757	千円 1,014,000	千口 754,500.575	千円 2,390,000

(注1) 金額は受渡し代金。
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2023年9月14日から2024年9月13日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 -	千円 -	千口 99	千円 99

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券 アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)	千口 5,025,523.755	千円 16,527,942	% 99.0

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首			当 期 末		
	口 数	金 額	評 価 額	口 数	金 額	評 価 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 100	千円 100	千円 1	千口 1	千円 1	千円 1

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2024年9月13日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 16,527,942	% 98.3
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	292,759	1.7
投資信託財産総額	16,820,703	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2024年9月13日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	16,820,703,755円
コール・ローン等	292,759,642
投資信託受益証券(評価額)	16,527,942,525
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	1,588
(B) 負債	123,271,631
未払解約金	9,010,784
未払信託報酬	113,504,231
その他未払費用	756,616
(C) 純資産総額(A - B)	16,697,432,124
元本	4,825,371,775
次期繰越損益金	11,872,060,349
(D) 受益権総口数	4,825,371,775口
1万口当り基準価額(C/D)	34,603円

*期首における元本額は5,165,314,002円、当作成期間中における追加設定元本額は740,801,805円、同解約元本額は1,080,744,032円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は34,603円です。

■損益の状況

当期 自2023年9月14日 至2024年9月13日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	141,120円
受取利息	158,605
支払利息	△ 17,485
(B) 有価証券売買損益	1,773,368,703
売買益	2,180,637,308
売買損	△ 407,268,605
(C) 信託報酬等	△ 213,592,011
(D) 当期損益金(A + B + C)	1,559,917,812
(E) 前期繰越損益金	3,925,062,868
(F) 追加信託差損益金	6,387,079,669
(配当等相当額)	(3,793,456,159)
(売買損益相当額)	(2,593,623,510)
(G) 合計(D + E + F)	11,872,060,349
次期繰越損益金(G)	11,872,060,349
追加信託差損益金	6,387,079,669
(配当等相当額)	(3,793,456,159)
(売買損益相当額)	(2,593,623,510)
分配準備積立金	5,484,980,680

- (注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
- (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
- (注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	119,761円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	1,559,727,171
(c) 収益調整金	6,387,079,669
(d) 分配準備積立金	3,925,133,748
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	11,872,060,349
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	11,872,060,349
(h) 受益権総口数	4,825,371,775口

《お知らせ》

■信託期間の延長について

2023年12月7日付で信託期間終了日を2025年9月12日から2050年9月13日に変更しました。

<補足情報>

当ファンド（ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算型）－ロボテック（年1回）－）が投資対象としている「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の決算日（2023年12月11日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2024年9月13日）現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンドの主要な売買銘柄
公 社 債

(2023年9月14日から2024年9月13日まで)

買		付	売		付
銘	柄	金 額	銘	柄	金 額
		千円			千円
1219国庫短期証券	2024/6/24	129,997,160			
1239国庫短期証券	2024/9/24	69,999,650			
1231国庫短期証券	2025/5/20	39,942,240			
1232国庫短期証券	2024/8/19	11,999,832			

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

下記は、2024年9月13日現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンド（128,608,834千円）の内容です。

(1) 国内（邦貨建）公社債（種類別）

2024年9月13日現在								
区 分	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	う ち B B 格 以 下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率			
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満	
国債証券	千円 110,000,000	千円 109,957,153	% 85.5	% -	% -	% -	% -	% 85.5

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

2024年9月13日現在							
区 分	銘	柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国債証券	1239国庫短期証券		% -	千円 70,000,000	千円 69,999,958	2024/09/24	
	1231国庫短期証券		% -	40,000,000	39,957,195	2025/05/20	
合 計	銘 柄 数	2銘柄					
	金 額			110,000,000	109,957,153		

(注) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

運用報告書 第14期 (決算日 2023年12月11日)

(作成対象期間 2022年12月10日～2023年12月11日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

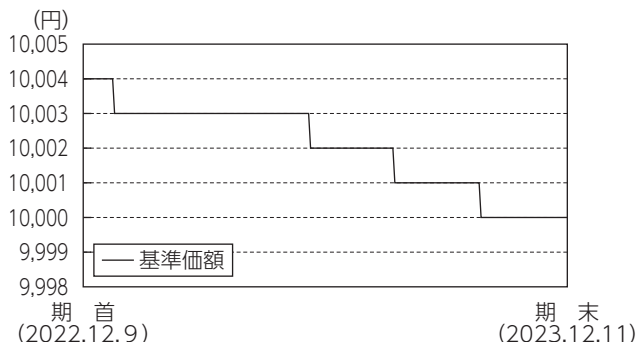
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	
(期首)2022年12月9日	円	%	%
12月末	10,004	-	-
2023年1月末	10,003	△0.0	-
2月末	10,003	△0.0	-
3月末	10,003	△0.0	-
4月末	10,003	△0.0	-
5月末	10,003	△0.0	-
6月末	10,002	△0.0	-
7月末	10,002	△0.0	-
8月末	10,001	△0.0	-
9月末	10,001	△0.0	-
10月末	10,000	△0.0	-
11月末	10,000	△0.0	-
(期末)2023年12月11日	10,000	△0.0	-

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,004円 期末：10,000円 騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】

コール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用	-
合 計	-

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

当作成期中における売買および取引はありません。

■主要な売買銘柄

当作成期中における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2023年12月11日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 224,869,425	% 100.0
投資信託財産総額	224,869,425	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年12月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	224,869,425,628円
コール・ローン等	224,869,425,628
(B) 負債	1,500,000,000
未払解約金	1,500,000,000
(C) 純資産総額(A - B)	223,369,425,628
元本	223,366,515,143
次期繰越損益金	2,910,485
(D) 受益権総口数	223,366,515,143口
1万口当り基準価額(C/D)	10,000円

* 期首における元本額は159,095,941,234円、当作成期間中における追加設定元本額は314,669,316,126円、同解約元本額は250,398,742,217円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック	947,268円
ダイワ/ミレアセット・インド株式ファンド - インドの匠	29,910,270円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり)	998円
ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジなし)	998円
US短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/毎月決算型)	102,434円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (為替ヘッジあり)	39,849円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型)	3,985円
- ロボテック (年1回) - (為替ヘッジあり)	
i Freeレバレッジ S&P500	8,578,400,572円
i Freeレバレッジ NASDAQ100	136,597,495,537円
クリーンテック株ファンド (資産成長型)	998,802円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (毎月決算/予想分配金提示型)	999円
世界インフラ戦略ファンド (為替ヘッジなし/資産成長型)	499,501円
i FreeETF 日経平均レバレッジ・インデックス	3,766,275,979円
i FreeETF 日経平均ダブルインバース・インデックス	7,383,524,817円
i FreeETF TOPIXレバレッジ (2倍) 指数	1,207,970,593円
i FreeETF TOPIXダブルインバース (-2倍) 指数	926,253,680円
i FreeETF 日経平均インバース・インデックス	8,758,653,432円
i FreeETF TOPIXインバース (-1倍) 指数	11,471,375,420円
i FreeETF JPY日経400レバレッジ・インデックス	788,263,236円
i FreeETF JPY日経400インバース・インデックス	114,002,117円
i FreeETF JPY日経400ダブルインバース・インデックス	78,926,070円
i FreeETF S&P500レバレッジ	556,085,029円
i FreeETF S&P500インバース	2,883,612,458円
先進国トータルリターン戦略ファンド (リス抑制型/適格機関投資家専用)	207,414,601円
ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - SLトレード	4,992,083円
ブルベア・マネー・ポートフォリオ6	25,460,730,955円
ブル3倍日本株ポートフォリオ6	11,487,636,953円
ベア2倍日本株ポートフォリオ6	3,017,601,716円
ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ	44,637,919円
ダイワUS短期ハイ・イールド社債ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	9,957円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジあり)	997円
ダイワ米国バンクローン・オープン (為替ヘッジなし)	997円
ダイワ/ミレアセット亜細亜株式ファンド	4,148円
通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 米ドル・コース	10,833円
通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) ブラジル・リアル・コース	10,788円
通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α (毎月分配型) 通貨セレクト・コース	12,751円
ロボット・テクノロジー関連株ファンド (年1回決算型) - ロボテック (年1回)	100,588円
ダイワ/ミレアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド	5,813円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,000円です。

■損益の状況

当期 自2022年12月10日 至2023年12月11日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△69,335,817円
支払利息	△69,335,817
(B) 当期損益金(A)	△69,335,817
(C) 前期繰越損益金	62,057,963
(D) 解約差損益金	△51,876,027
(E) 追加信託差損益金	62,064,366
(F) 合計(B + C + D + E)	2,910,485
次期繰越損益金(F)	2,910,485

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2050年9月12日まで	
運用方針	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド（以下、「マザーファンド」）の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
ベビーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 主として、マザーファンドの受益証券に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。 マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。 	
マザーファンドの運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。 ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。 	
組入制限	当ファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	<p>毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①分配対象額の範囲は繰越分を含めた利子、配当等収益と売買益（繰越欠損補填後、評価損益を含む）等の金額とします。 ②分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 	

アクサ IM・グローバル・ ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

運用報告書（全体版）

第17期（決算日 2024年8月13日）

受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」は、このたび第17期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー14階
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》
電話番号：03-5447-3160
受付時間：9：00～17：00(土日祭日を除く)

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	基 準 価 額			株 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配 金	期 騰 落 中 率		
13期末(2022年8月15日)	円 26,053		円 0	% 3.1	% 95.5	百万円 268,374
14期末(2023年2月13日)	25,522		0	△ 2.0	95.4	252,709
15期末(2023年8月14日)	28,828		0	13.0	97.2	259,767
16期末(2024年2月13日)	33,413		0	15.9	97.6	280,061
17期末(2024年8月13日)	33,081		0	△ 1.0	98.4	259,050

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

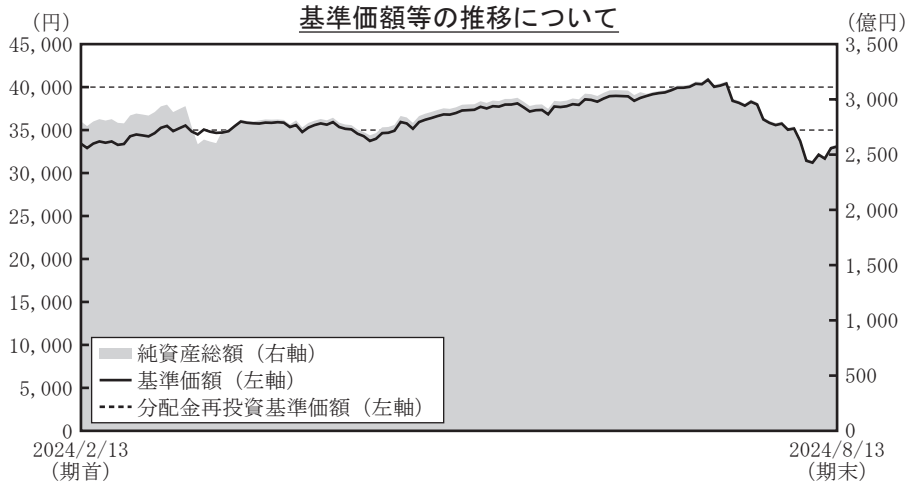
年 月 日	基 準 価 額	基 準 価 額		株 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	
(期 首) 2024年2月13日	円 33,413		% —	% 97.6
2月末	34,264		2.5	98.1
3月末	35,842		7.3	96.0
4月末	35,940		7.6	96.5
5月末	37,159		11.2	96.9
6月末	39,172		17.2	98.7
7月末	35,038		4.9	98.0
(期 末) 2024年8月13日	33,081		△ 1.0	98.4

(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2024年2月14日～2024年8月13日）



期 首：33,413円

期 末：33,081円（既払分配金（税込み）：0円）

騰 落 率：△1.0%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当期は、日本や欧州などの保有銘柄の株価が下落したことがマイナス要因となった他、為替市場で米国通貨に対して円高が進行したこともマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、期初より2023年10－12月期の決算発表が予想を上回るものが多く、株式市場の支えとなり、株価は上昇しました。3月も好調なマクロ経済を背景に、世界の株価指数は歴史的な高値を記録しました。4月に入ると一転して、米国の利下げ開始はやや後ずれするとの見方に傾き始めたことや地政学面においては中東における対立が深刻化し、投資家のリスク選好度に重くのしかかったことも影響して下落しました。5月に入ると予想を上回る2024年1－3月期の決算発表や人工知能（AI）への高い期待に支えられ、株価は上昇し、6月も引き続き堅調に推移しました。8月に入ると米連邦準備理事会（FRB）が制約的な金融政策を維持する中、1日発表の一連の経済指標で、予想以上のペースで景気が減速している可能性が示されたことが重しになり、主要株価指数がそろって急反落しました。その影響を受けて2日の日経平均株価も1,900円の大幅安となりましたが、グローバル株式市場は期を通じて上昇となりました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の149円台から期末には147円台となり、ユーロ・円レートは期初の160円台から期末には161円台となりました。

当期は、米ドルはFRBによる早期の利下げ観測が後退したことや、日銀が4月の金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定したことを受けて日米金利差が開いた状況が長く続くとの見方が強まったことなどから円安が進行しました。その後、7月末の日銀による追加利上げを受けて、日米金利差が縮小するとの見方から円高が進行しました。ユーロはユーロ圏の景気回復期待から円安が進行しました。

【ポートフォリオについて】

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、年初来で堅調なパフォーマンスを続けていた半導体銘柄の一部の組入を減らしました。具体的には、エヌビディア（画像処理半導体（GPU））、アプライド・マテリアルズ（半導体製造装置）、テラデザイン（半導体検査装置）、TSMC（半導体受託製造）、クアルコム（通信機器向け半導体）などの銘柄を一部売却しました。また、同様に堅調なパフォーマンスとなっていたシュナイダー・エレクトリック（総合電機）、インテュイティブ・サージカル（手術支援ロボット）についても一部売却し利益を確定しました。インテュイティブ・サージカルの売却代金を使って医療機器メーカーのプロセプト・バイオロボティクスを新規に組み入れました。同社は、泌尿器科に特化した手術用ロボットを提供しています。

【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【分配金】

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第17期
		2024年2月14日～2024年8月13日
当期分配金		—
	（対基準価額比率）	—%
	当期の収益	—
	当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額		23,529

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を四捨五入して表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

米国の経済指標は予想よりも底堅く推移しており、労働市場も比較的堅調さを保っていることから、米経済のソフトランディング（大きく後退することなく景気が減速すること）の可能性は高まっていると見られます。引き続き、労働市場では逼迫した状態が続いています。例えば、製造業や倉庫業では、労働コスト上昇や労働力不足に直面して、企業は効率性と生産性を向上させるため、テクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性に迫られています。労働力不足と賃金インフレは向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。労働コストが上昇すればするほど、自動化導入費用の回収期間は短くなり、従ってより多くの分野で自動化が検討されると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■1万口当たりの費用明細（2024年2月14日～2024年8月13日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	104円	0.287%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は36,333円です。
（投 信 会 社）	（ 99）	（0.273）	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	（ 1）	（0.003）	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	（ 4）	（0.011）	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	2	0.006	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	（ 2）	（0.006）	
そ の 他 費 用	3	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	（ 0）	（0.000）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	（ 3）	（0.007）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	109	0.300	

（注1）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況（2024年2月14日～2024年8月13日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	5,255,425	15,550,000	12,042,654	36,170,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2024年2月14日～2024年8月13日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	76,943,425千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	291,738,984千円
(c) 売 買 高 比 率(a)/(b)	0.26

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2024年2月14日～2024年8月13日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2024年2月14日～2024年8月13日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2024年8月13日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	98,623,739	91,836,510	258,942,225

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2024年8月13日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	258,942,225	99.6
コール・ローン等、その他	934,256	0.4
投資信託財産総額	259,876,482	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（228,400,707千円）の投資信託財産総額（269,017,590千円）に対する比率は、84.9%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=147.34円、1台湾ドル=4.537円、1ノルウェークロネ=13.63円、1ユーロ=161.04円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2024年8月13日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	259,876,482,071円
コール・ローン等	934,256,093
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(評価額)	258,942,225,978
(B) 負 債	826,448,351
未払信託報酬	825,884,672
その他未払費用	563,679
(C) 純資産総額(A-B)	259,050,033,720
元 本	78,306,783,052
次期繰越損益金	180,743,250,668
(D) 受益権総口数	78,306,783,052口
1万口当たり基準価額(C/D)	33,081円

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 期首元本額 | 83,817,603,845円 |
| 期中追加設定元本額 | 4,541,447,698円 |
| 期中一部解約元本額 | 10,052,268,491円 |
| 2. 1口当たり純資産額 | 3.3081円 |

■損益の状況

当期(自 2024年2月14日 至 2024年8月13日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 5,335円
受 取 利 息	7,812
支 払 利 息	△ 13,147
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 2,415,093,140
売 買 益	1,982,802,691
売 買 損	△ 4,397,895,831
(C) 信 託 報 酬 等	△ 826,448,351
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 3,241,546,826
(E) 前期繰越損益金	131,808,154,476
(F) 追加信託差損益金	52,176,643,018
(配当等相当額)	(52,292,719,013)
(売買損益相当額)	(△ 116,075,995)
(G) 計 (D+E+F)	180,743,250,668
次期繰越損益金(G)	180,743,250,668
追加信託差損益金	52,176,643,018
(配当等相当額)	(52,308,384,755)
(売買損益相当額)	(△ 131,741,737)
分配準備積立金	131,943,467,567
繰越損益金	△ 3,376,859,917

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(135,313,091円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(52,308,384,755円)および分配準備積立金(131,808,154,476円)より分配対象収益は184,251,852,322円(10,000口当たり23,529.49円)ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよび消費者向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。 2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。 <ol style="list-style-type: none"> イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。 ロ) 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。 ハ) 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。 3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。 5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
株式組入制限	無制限

アクサ IM・グローバル・ ロボット関連株式マザーファンド

運用報告書

第9期（決算日：2024年8月13日）

（計算期間 2023年8月15日～2024年8月13日）

■最近5期の運用実績

決算期	基準 額	騰落率		株組 入比率	純資 産額
		期騰	中率		
	円		%	%	百万円
5期末(2020年8月13日)	16,315		46.3	97.0	262,542
6期末(2021年8月13日)	22,368		37.1	97.9	299,321
7期末(2022年8月15日)	21,962	△	1.8	95.5	281,351
8期末(2023年8月14日)	24,434		11.3	97.2	272,244
9期末(2024年8月13日)	28,196		15.4	98.4	269,017

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

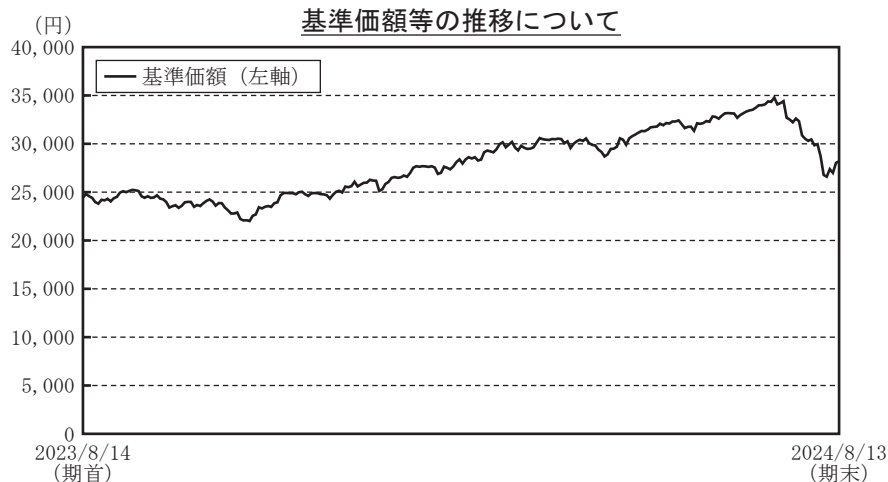
■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基準 額	騰落率		株組 入比率
		騰	落率	
(期首) 2023年8月14日	円 24,434		% —	% 97.2
8月末	25,096		2.7	97.1
9月末	23,949	△	2.0	96.3
10月末	22,013	△	9.9	96.3
11月末	24,873		1.8	96.9
12月末	26,177		7.1	96.5
2024年1月末	27,538		12.7	97.8
2月末	29,116		19.2	98.1
3月末	30,472		24.7	96.0
4月末	30,570		25.1	96.5
5月末	31,621		29.4	96.8
6月末	33,346		36.5	98.5
7月末	29,849		22.2	97.9
(期末) 2024年8月13日	円 28,196		% 15.4	% 98.4

(注1) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2023年8月15日～2024年8月13日）



【基準価額の主な変動要因】

当期は、米国や台湾などの保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となった他、為替市場で主要通貨に対して円安が進行したこともプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、期初よりマクロ経済の不透明感が投資家心理に影響したことから下落し、9月も米連邦準備理事会（FRB）の「タカ派的な利上げ一時停止」の発表により下押し圧力が強まったことや、投資家のソフトランディングを軸としたシナリオが楽観的すぎるように見え始めたことが要因となり続落しました。10月に入るとイスラエルとハマスの対立が再燃し、中東の緊張が極度に高まったことや、中国の需要減による日本の経済活動の低下など不確実な状況の中で引き続き下落しましたが、11月に大きく反発した後、12月も堅調なパフォーマンスを持続しました。インフレ率の減速、FRBの利上げ終了及び2024年前半における利下げ開始への期待感が市場を押し上げました。2024年1月以降も2023年10～12月期の決算発表が予想を上回るものが多く、株式市場の支えとなり、株価は上昇しました。3月も好調なマクロ経済を背景に、世界の株価指数は歴史的な高値を記録しました。4月に入ると一転して、米国の利下げ開始はやや後ずれするとの見方に傾き始めたことや地政学面においては中東における対立が深刻化し、投資家のリスク選好度に重くのしかかったことも影響して下落しました。5月に入ると予想を上回る2024年1～3月期の決算発表や人工知能（AI）への高い期待に支えられ、株価は上昇し、6月も引き続き堅調に推移しました。8月に入ると米連邦準備理事会（FRB）が制約的な金融政策を維持する中、1日発表の一連の経済指標で、予想以上のペースで景気が減速している可能性が示されたことが重しになり、主要株価指数がそろって急反落しました。その影響を受けて2日の日経平均株価も1,900円の大幅安となりましたが、グローバル株式市場は期を通じて上昇となりました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の145円台から期末には147円台となり、ユーロ・円レートは期初の158円台から期末には161円台となりました。

当期は、米ドルはFRBによる早期の利下げ観測が後退したことや、日銀が4月の金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定したことを受けて日米金利差が開いた状況が長く続くとの見方が強まったことなどから円安が進行しました。その後、7月末の日銀による追加利上げを受けて、日米金利差が縮小するとの見方から円高が進行しましたが、期を通じては円安となりました。ユーロはユーロ圏の景気回復期待から円安が進行しました。

【ポートフォリオについて】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやグローバス・メディカルなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、2024年初来で堅調なパフォーマンスを続けていた半導体銘柄の一部の組入を減らしました。具体的には、エヌビディア（画像処理半導体（GPU））、アプライド・マテリアルズ（半導体製造装置）、テラダイン（半導体検査装置）、TSMC（半導体受託製造）、クアルコム（通信機器向け半導体）などの銘柄を一部売却しました。また、同様に堅調なパフォーマンスとなっていたシュナイダー・エレクトリック（総合電機）、インテュイティブ・サージカル（手術支援ロボット）についても一部売却し利益を確定しました。インテュイティブ・サージカルの売却代金を使って医療機器メーカーのプロセプト・バイオロボティクスを新規に組入れました。同社は、泌尿器科に特化した手術用ロボットを提供しています。

【当ファンドのベンチマークとの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【今後の運用方針】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

米国の経済指標は予想よりも底堅く推移しており、労働市場も比較的堅調さを保っていることから、米経済のソフトランディング（大きく後退することなく景気が減速すること）の可能性は高まっていると見られます。引き続き、労働市場では逼迫した状態が続いています。例えば、製造業や倉庫業では、労働コスト上昇や労働力不足に直面して、企業は効率性と生産性を向上させるため、テクノロジーを導入し、プロセスを自動化させる必要性に迫られています。労働力不足と賃金インフレは向こう数年にわたって自動化需要の大きな原動力になると考えています。労働コストが上昇すればするほど、自動化導入費用の回収期間は短くなり、従ってより多くの分野で自動化が検討されると考えられます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細 (2023年8月15日～2024年8月13日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	3円 (3)	0.011% (0.011)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
そ の 他 費 用 (そ の 他)	4 (4)	0.014 (0.014)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合 計	7	0.026	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。期中の平均基準価額は27,929円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2023年8月15日～2024年8月13日)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	日 本	千株 1,150	千円 5,627,865	千株 884	千円 4,900,306
	外 国	百株 21,462 (13,656.06)	千アメリカドル 257,565 ()	百株 42,553	千アメリカドル 517,078
国	台 湾	250	千台湾ドル 19,744	3,660	千台湾ドル 280,929
	ノ ル ウ ェ ー ユーロ	24,541	千ノルウェークローネ 45,400	10,066	千ノルウェークローネ 17,451
	オ ラ ン ダ	437	26,262	31	2,726
	フ ラ ン ス	26	546	484	9,980
	ド イ ツ	2,310	8,136	3,219	29,129
	そ の 他	—	—	2,522	802

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) ()内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2023年8月15日～2024年8月13日)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	142,117,053千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	276,078,147千円
(c) 売 買 高 比 率(a)／(b)	0.51

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄 (2023年8月15日～2024年8月13日)

買		付		売		付	
銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
BROADCOM INC	25	4,584,660	181,649	NVIDIA CORP	204	9,493,727	46,474
ASML HOLDING NV	43	4,226,335	96,699	AXONICS MODULATION TECHNOLOG	706	7,180,245	10,167
PTC INC	129	3,611,855	27,809	MICROCHIP TECHNOLOGY INC	518	6,276,351	12,101
NXP SEMICONDUCTORS NV	84	2,643,692	31,358	APPLE INC.	221	5,821,277	26,260
ZEBRA TECHNOLOGIES CORP-CL A	53	2,352,605	43,846	QUALCOMM INC	196	4,447,626	22,584
ダイフク	712	2,256,222	3,167	INTUITIVE SURGICAL INC	73	4,281,219	58,072
SHOCKWAVE MEDICAL INC	53	2,139,969	40,287	APTIV PLC	331	4,003,875	12,086
AMAZON.COM INC.	90	2,137,093	23,604	CONMED CORP	303	3,573,076	11,781
APPLIED MATERIALS INC	93	2,073,657	22,239	SIEMENS AG	131	3,536,588	26,867
GLOBUS MEDICAL INC-A	267	1,978,789	7,391	SILICON LABORATORIES INC	202	3,496,783	17,255

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等 (2023年8月15日～2024年8月13日)

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況 (2023年8月15日～2024年8月13日)

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細 (2024年8月13日現在)

(1) 国内株式

銘柄	前期末	当期末	
	株数	評価額	金額
	千株	千株	千円
機械 (30.1%)			
ナブテスコ	913	955	2,252,597
SMC	71	64	4,225,153
ダイフク	1,470	2,023	5,285,120
電気機器 (69.9%)			
三菱電機	2,533	2,283	4,949,486
安川電機	775	699	3,192,789
オムロン	444	400	2,157,878
キーエンス	152	164	10,638,680
ファナック	1,539	1,576	6,373,829
合計	株数・金額	7,900	8,166 39,075,535
	銘柄数<比率>	8	8 <14.5%>

(注1) 銘柄欄の()内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切捨て。

(2) 外国株式

銘柄	前期末	当 期 末		業 種 等		
	株 数	株 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
	百株	百株	千米ドル	千円		
(アメリカ)						
NXP SEMICONDUCTORS NV	792	1,497	35,958	5,298,151	半導体・半導体製造装置	
KORNIT DIGITAL LTD	4,729	3,164	5,214	768,329	資本財	
ADVANCED MICRO DEVICES	3,574	3,939	53,879	7,938,537	半導体・半導体製造装置	
APTIV PLC	3,312	—	—	—	自動車・自動車部品	
ALPHABET INC-CL C	4,267	3,508	57,515	8,474,304	メディア・娯楽	
AMAZON.COM INC.	4,451	4,817	80,359	11,840,178	一般消費財・サービス流通・小売り	
ANSYS INC	1,140	1,028	32,219	4,747,274	ソフトウェア・サービス	
APPLE INC.	2,216	—	—	—	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
APPLIED MATERIALS INC	1,623	1,909	36,863	5,431,537	半導体・半導体製造装置	
AUTODESK INC	1,965	1,584	37,962	5,593,465	ソフトウェア・サービス	
AXONICS MODULATION TECHNOLOG	7,062	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス	
BENTLEY SYSTEMS INC-CLASS B	5,824	6,082	29,403	4,332,323	ソフトウェア・サービス	
BROADCOM INC	—	2,438	36,243	5,340,184	半導体・半導体製造装置	
CADENCE DESIGN SYS INC	2,908	2,646	70,568	10,397,627	ソフトウェア・サービス	
COGNEX CORP	5,969	5,380	20,714	3,052,029	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
CONMED CORP	3,032	—	—	—	ヘルスケア機器・サービス	
ALTAIR ENGINEERING INC - A	4,837	4,360	38,181	5,625,724	ソフトウェア・サービス	
DEXCOM INC	6,178	6,124	43,652	6,431,762	ヘルスケア機器・サービス	
ASPEN TECHNOLOGY INC	1,241	1,556	32,543	4,794,967	ソフトウェア・サービス	
GXO LOGISTICS INC	4,860	5,242	24,353	3,588,265	運輸	
GLOBUS MEDICAL INC-A	4,720	6,726	49,138	7,240,116	ヘルスケア機器・サービス	
ILLUMINA INC	787	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
IMPINJ INC	—	462	6,975	1,027,797	半導体・半導体製造装置	
INTUITIVE SURGICAL INC	2,918	2,207	102,753	15,139,653	ヘルスケア機器・サービス	
LINCOLN ELECTRIC HOLDINGS	559	826	15,523	2,287,222	資本財	
MICROCHIP TECHNOLOGY INC	5,186	—	—	—	半導体・半導体製造装置	
MOBILEYE GLOBAL INC-A	—	3,290	4,804	707,825	自動車・自動車部品	
NOVANTA INC	1,915	2,266	38,840	5,722,750	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
NVIDIA CORP	1,862	11,295	123,138	18,143,182	半導体・半導体製造装置	
ON SEMICONDUCTOR CORPORATION	4,102	3,697	26,018	3,833,601	半導体・半導体製造装置	
PTC INC	—	1,246	21,212	3,125,522	ソフトウェア・サービス	
PROCEPT BIOROBOTICS CORP	—	1,700	10,771	1,587,116	ヘルスケア機器・サービス	
QUALCOMM INC	3,524	1,582	25,774	3,797,577	半導体・半導体製造装置	
SILICON LABORATORIES INC	3,071	1,056	10,408	1,533,640	半導体・半導体製造装置	
SYMBOTIC INC	—	2,382	5,057	745,118	資本財	
TERADYNE INC	4,696	3,173	38,822	5,720,112	半導体・半導体製造装置	
TESLA, INC.	868	—	—	—	自動車・自動車部品	
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	935	924	55,391	8,161,340	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
TRIMBLE INC	6,163	5,555	28,947	4,265,074	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
ZEBRA TECHNOLOGIES CORP-CL A	661	1,118	35,830	5,279,196	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	
AMBARELLA INC	2,662	2,399	10,404	1,533,029	半導体・半導体製造装置	
小 計	株 数	金 額	114,626	107,192	1,245,449	183,504,541
	銘柄 数<比率>		35	34	—	<68.2%>

銘柄		前期末	当 期 末		業 種 等	
		株 数	株 数	評 価 額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(台湾) TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING		百株 25,170	百株 21,760	千台湾ドル 2,045,440	千円 9,281,593	半導体・半導体製造装置
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	25,170 1	21,760 1	2,045,440 -	9,281,593 <3.5%>	
(ノルウェー) AUTOSTORE HOLDINGS LTD-W/I		84,660	99,135	千ノルウェー クローネ 123,424	1,682,272	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	84,660 1	99,135 1	123,424 -	1,682,272 <0.6%>	
(オランダ) ASML HOLDING NV		-	405	千ユーロ 31,846	5,128,500	半導体・半導体製造装置
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	- -	405 1	31,846 -	5,128,500 <1.9%>	
(フランス) SCHNEIDER ELECTRIC SE		2,680	2,222	千ユーロ 46,946	7,560,197	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	2,680 1	2,222 1	46,946 -	7,560,197 <2.8%>	
(ドイツ) SIEMENS AG INFINEON TECHNOLOGIES AG KION GROUP AG		4,333 11,015 5,248	3,049 11,907 4,730	千ユーロ 47,944 36,056 15,942	7,720,996 5,806,599 2,567,341	資本財 半導体・半導体製造装置 資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	20,597 3	19,688 3	99,943 -	16,094,936 <6.0%>	
(その他) MAREL HF		50,224	47,702	千ユーロ 15,455	2,488,983	資本財
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	50,224 1	47,702 1	15,455 -	2,488,983 <0.9%>	
ユーロ計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	73,503 5	70,019 6	194,191 -	31,272,619 <11.6%>	
合 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数<比 率>	297,960 42	298,107 42	- -	225,741,026 <83.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 小計欄の< >内は純資産総額に対する各通貨別評価額の比率。

(注3) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注4) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2024年8月13日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	千円 264,816,561	% 98.4
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	4,201,029	1.6
投 資 信 託 財 産 総 額	269,017,590	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産(228,400,707千円)の投資信託財産総額(269,017,590千円)に対する比率は、84.9%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=147.34円、1台湾ドル=4.537円、1ノルウェークロネ=13.63円、1ユーロ=161.04円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年8月13日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	269,017,590,857円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	4,162,817,050
株 式(評価額)	264,816,561,807
未 収 配 当 金	38,212,000
(B) 負 債	—
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	269,017,590,857
元 本	95,408,530,704
次 期 繰 越 損 益 金	173,609,060,153
(D) 受 益 権 総 口 数	95,408,530,704口
1万口当たり基準価額(C/D)	28,196円

1. 期首元本額	111,419,293,139円
期中追加設定元本額	8,728,019,578円
期中一部解約元本額	24,738,782,013円
2. 1口当たりの純資産額	2,8196円
3. 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額	
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	91,836,510,845円
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)	3,572,019,859円
期末元本合計	95,408,530,704円

■損益の状況

(2023年8月15日~2024年8月13日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	1,928,244,608円
受 取 配 当 金	1,618,885,852
受 取 利 息	310,589,628
支 払 利 息	△ 1,230,872
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	40,004,545,725
売 買 損 益	61,607,093,800
売 買 損 益	△ 21,602,548,075
(C) 信 託 報 酬 等	△ 40,029,446
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	41,892,760,887
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	160,825,536,831
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 44,431,217,987
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	15,321,980,422
(H) 計 (D+E+F+G)	173,609,060,153
次 期 繰 越 損 益 金(H)	173,609,060,153

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。